

# 栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	宮城県
推進地域名 (再委託先)	多賀城市

## 1 事業推進の体制

実践中心校	多賀城市立多賀城中学校
協力校	多賀城市立第二中学校，多賀城市立東豊中学校，多賀城市立高崎中学校，多賀城市立多賀城小学校，多賀城市立多賀城東小学校，多賀城市立山王小学校，多賀城市立天真小学校，多賀城市立城南小学校，多賀城市立多賀城八幡小学校
関係機関	公益財団法人宮城県学校給食会

## 2 各都道府県教育委員会の取組

### (1) 食育の方針（取組内容）

・宮城県では、小学校の約70%，中学校の約80%が共同調理場からの受配校であることから、大規模な学校給食センターを中心に地域全体での食育推進の方法，体制の在り方について研究する。計画では2年間の取組を想定した。

### (2) 実践推進地域への指導・支援内容等

※多賀城市教育委員会と連携し，共同調理場を中心とした市内全域の学校での食育の在り方について，食育推進体制を整備し，計画的・継続的な指導の方法について研究を深めていくよう支援してきた。

- ①県食育推進検討会を開催し，組織的に支援
- ②多賀城市食育推進検討委員会委員として，推進の方法等について支援
- ③多賀城市教育委員会主催の全職員研修においてパネラーとして参加
  - ・管理職，担任，栄養教諭の食育を行っていく上での連携の仕方，関わり方について提案
- ④研修会の開催
  - ・関係部局と連携し多賀城市の研究の支援となるよう工夫した。
  - ・前年度の研究の周知に努めた。

## 3 具体的な取組等について

テーマ1	学校における食に関する指導の普及啓発のための取組															
評価指標	食に関する指導全体計画の整備状況及び校内体制の整備状況															
効果	<p>1 実態調査の結果について</p> <p>ア 食に関する指導の全体計画を有する学校の割合</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H22.5.1 現在</th> <th>H23.5.1 現在</th> <th>H24.5.1 現在</th> <th>H25.5.1 現在</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>99.3%</td> <td>→ 99.1%</td> <td>→ 99.3%</td> <td>→ 99.0%</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>95.8%</td> <td>→ 98.1%</td> <td>→ 98.1%</td> <td>→ 95.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>*食に関する指導の全体計画については，県内のほとんどの小・中学校において整備は完了していると言える。しかし，不備と回答している学校が年度によって違っている。近年，県内では学校の統廃合が進んでいることもあり，今後は，計画の引き継ぎや，より学校の実態にあった計画となるよう，促していくとともに，先進的な事例等を紹介していく必要があると考えている。</p>		H22.5.1 現在	H23.5.1 現在	H24.5.1 現在	H25.5.1 現在	小学校	99.3%	→ 99.1%	→ 99.3%	→ 99.0%	中学校	95.8%	→ 98.1%	→ 98.1%	→ 95.7%
	H22.5.1 現在	H23.5.1 現在	H24.5.1 現在	H25.5.1 現在												
小学校	99.3%	→ 99.1%	→ 99.3%	→ 99.0%												
中学校	95.8%	→ 98.1%	→ 98.1%	→ 95.7%												

イ 「食に関する指導」担当組織を有する学校数（小・中学校合算）

H22.5.1 現在 370校 (55.8%)	→	H23.5.1 現在 375校 (57.7%)	→	H24.5.1 現在 382校 (59.8%)	→	H25.5.1 現在 407校 (65.9%)
-------------------------------	---	-------------------------------	---	-------------------------------	---	-------------------------------

\*年度毎に着実に増えてきている。学校全体で食育に取り組む意識が定着しつつあると言える。

2 研修会の開催について

ア 研修目的を学校給食管理と食に関する指導に分け開催することにより、参加者やテーマを絞ることができ、有意義な研修ができるようになっている。どちらの研修会も90%以上の満足度であった。

(取組状況)

(1) 実態調査の実施

- ・調査内容：①「食に関する指導の全体計画」及び「食に関する指導担当組織」の整備状況に関する調査を実施  
②全国学校給食週間について取組状況の調査を実施

(2) 食育推進検討会議の開催（年3回）

大学准教授、推進地域の代表者、県連合小中学校教育研究会給食部会長（校長）、過去の食育推進実践校担当者、庁内関係課担当者等からなる検討委員会を開催し、推進地域の取組を中心に検討すると共に、宮城県における食育推進の方向性についても広く検討した。特に今年度は公益財団法人宮城県学校給食会とも連携し、様々な取組を行った。

検討会議の開催にあたっては、下部組織として、「食に関する指導ワーキング会議（下記の2部会）」と「栄養教諭連絡協議会」を設置し、効果的に開催されるよう工夫した。

① 食に関する指導推進ワーキング会議《食に関する指導・学校給食の手引改訂部会年6回》

平成20年に本県で発行した「食に関する指導・学校給食の手引」について、食物アレルギー対応等今日的課題や新しい法規などに合わせた改訂版の作成を行うため「食に関する指導推進ワーキング会議《食に関する指導・学校給食の手引改訂部会年6回》」を実施した。

手引改訂にあたっては、できるだけ実践事例を掲載し、改訂前より更に学校現場において使い易くなるよう工夫した。各学校等へ配布する他、県のホームページにも掲載し食に関する指導の更なる充実を図っていく。なお、発行については公益財団法人宮城県学校給食会と連携して取り組んだ。

② 食に関する指導推進ワーキング会議《食育推進啓発カレンダー作成部会年3回》

学校における食育を推進するため「食に関する指導推進ワーキング会議《食育推進啓発カレンダー作成部会年3回》」を実施した。県内の小中学生を対象に食育推進啓発ポスターを募集し、最優秀作品を使用した食育カレンダーを作成し、各小中学校等に配布すると共に、県のホームページにも掲載した。

ア 募集したポスター作品の内容

「いろいろな食品を組み合わせて食べることの大切さについて啓発するもの」

「感謝して食べることについて啓発するもの」

イ 応募があった作品数 … 112作品

ウ 審査方法…ワーキング委員による1次・2次審査の後、教育次長、庁内及び仙台市関係課長による最終審査を行い、小・中学校各部門毎に優秀作品を選考した。各部門の最優秀作品を使用したカレンダーを作成し、各学校、共同調理場等に配布するとともに、本課ホームページからもダウンロード可能にし、自由に活用できるようにしている。

(本課ホームページアドレス：<http://www.pref.miyagi.jp/site/kyouiku/kyuutop.html>)

《食育推進啓発カレンダー》



小学校部門

《金賞》



《銀賞》



《銅賞》



《受賞の様子》



中学校部門



該当なし



③ 栄養教諭連絡協議会（年1回）

学校における食育について、石巻市の教諭による講話を行い、それを受けて効果的な取り組みについての研究協議を行った。さらに生産者として学校の食育に関わっている方の講演・演習を行い、今後の取組の一助とした。

日時：平成25年9月20日（金）10:00～16:00

対象：栄養教諭

内容：講義「本校における食育の実践研究について」 石巻市立石巻小学校教諭  
研究協議 テーマ①「家庭と連携した効果的な取組について」  
テーマ②「教科と連携した効果的な取組について」

講演・演習「生産者としての食育との関わり～稲作としめ縄づくり～」 農業経営者  
説明「今年度の事業の概要について」 県教育委員会



《講義・演習の様子》

(3) 研修会の開催（年2回）

①宮城県学校給食研修会

- 十分な衛生管理を踏まえた学校給食の充実を図り児童生徒の健康で望ましい食習慣の形成に資するための研修会を開催し、「生きた教材」としての学校給食の充実を図るもの。特に、調理員によるドライ運用の実践発表は、大変有意義だった。前年度の衛生管理巡回指導の報告も併せて行った。

日時：平成25年7月29日（月）10:00～16:00

対象：市町村教育委員会、共同調理場長、栄養教諭・学校栄養職員、調理員等

内容：説明「学校給食実施基準の一部改正について」 県教育委員会

話題提供「県産農林水産物の放射性物質対策について」 県農林水産部

講義「安全な学校給食を子供たちにー衛生管理の基礎・基本についてー」

講師 東京岡大学兼任教授 医学博士 中村 明子 氏

報告「平成24年度学校給食施設衛生管理等巡回訪問報告から」 衛生指導員

実践発表「調理場における衛生管理の取組～ウエットシステム調理場でのドライ運用を図って～」 仙台市調理員



②宮城県食に関する指導推進研修会

- 学校給食を活用した食に関する指導の推進を目的とした研修を行い学校教育活動全体を通じた食に関する指導の充実を図るもの。特に、基本的な生活習慣に関する講演は保護者などへの話題提供にも役立つ内容であった。前年度の食育推進事業の報告も併せて行った。

日時：平成25年11月13日（木）10:00～16:00

対象：校長、副校長、教頭、主幹教諭、教諭、市町村教育委員会、共同調理場長、栄養教諭・学校栄養職員等

内容：講演「学力・体力・気力の向上は生活習慣病の立て直しから」

講師 東海大学体育学部教授・大学院体育学研究科長 小澤治夫氏

講演「震災後の対応と取組～東日本大震災を経験して～」 志津川高校教諭

「3.11について～志津川高校 語り部ボランティア～」 生徒

情報提供「おみそのヒミツ～仙台みそ博士の出前授業～」 宮城県味噌醤油工業共同組合

実践報告「平成24年度栄養教諭を中核とした食育推進事業実践報告から」

蔵王町立円田中学校、大崎市立鳴子小学校





<b>テーマ2</b>	小・中学校9年間を通じた食に関する指導（体制）の在り方
<b>評価指標</b>	推進地域の指標による
<b>効果</b>	推進地域の報告による
<p><b>（取組状況）</b></p> <p>（1）推進地域の指定</p> <p>栄養教諭が配置されている地域を推進地域に指定し、地域の特徴を生かしつつ「小・中学校9年間を通じた食に関する指導（体制）の在り方」について実践し、その取組や成果を地域及び県内の他地域に研修会等を通して普及を図る。2年間を想定して計画していたが、事業廃止に伴い今年度で終了とする。</p> <p>※具体的な内容については、推進地域からの報告によるものとします。</p>	

#### 4 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「食に関する指導・学校給食の手引」の改訂においては、広く県内から実践例等を収集し、食物アレルギー対応等今日的課題や新しい法規に合わせ改訂した。特に、個別指導や危機管理については改訂以前のものをより充実させ学校現場の参考となるよう工夫した。各学校等へ配布する他、県のホームページにも掲載し、食に関する指導及び学校給食の更なる充実を図っていく。また、発行については公益財団法人宮城県学校給食会と連携して取り組んだ。今後、手引の活用についての周知等も連携して行っていく予定である。</li> <li>・多賀城市教育委員会による実践的な取組は、県全体で抱えている学校における食育推進の課題解決に役立つものと考えている。特に、各受配校における指導の方法について「教職員間の理解を得、共通理解」を図ったり「指導時間における T1 と T2 の役割分担」を明確にする等、教育委員会や栄養教諭が取り組んだ様々な方策は、県内の他地域においても参考になるものとなった。</li> <li>・県内で抱えている課題に関連した講演などは、学校給食関係者等の資質の向上や食育の更なる充実に関わっている。また、調理員と学校関係者がともに学び共通の認識を持つ、貴重な研修の場となっている。</li> <li>・食育推進啓発ポスターの募集及びカレンダーの配布については、児童生徒が直接的に食育に関わることができる機会であり、また、カレンダーとして各学校に掲示することで各学校の食育推進に活用され、さらに応募者の励みや意欲向上に関わっている。</li> </ul>
--

#### 5 各都道府県教育委員会における事業成果の活用について

<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校における食に関する指導全体計画の作成状況や食育推進組織の整備状況について周知することは、未整備の学校への喚起になる。また、先進的な取組について、改訂した「食に関する指導・学校給食の手引」に掲載することで、学校の実態に即した整備に関わっていくものと考えられる。</li> <li>・今年度の多賀城市の取組を、実践発表という形で周知することは、他の栄養教諭にとっては今後の実践の参考になり、また、学校関係者にとっては効果的な食育の推進について、教育委員会にとっては委員会の役割について考えるきっかけや意欲の喚起に関わるものと期待している。</li> <li>・関係機関と連携し、研修会等で県内の様々な部署の情報を提供することで、学校における食育実践のヒントとし、更なる推進を目指している。また、関係機関にも学校の食育の実態を知らせることができ県全体の食育推進に貢献している。 <ul style="list-style-type: none"> <li>※農林水産部…放射能の検査態勢・食の伝え人や食材王国みやぎについて</li> <li>※健康推進課…みそ博士の出前授業・食育コーディネーター・食育推進リーフレットについて</li> </ul> </li> </ul>
--

## 6 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

東日本大震災から2年が経過した。子どもたちを取り巻く状況は様々であるが、朝食の喫食率など昨年に比べ微増していることなどから、望ましい生活習慣を心がけている様子が見えてくる。しかし、時が経過して行くにつれ、疲労感なども懸念されるので、今後とも状況を注視し、情報提供等の必要性を感じている。

### ア 指導計画について

- ・ 全体指導計画については県内のほとんどの学校で作成は完了していると言える。しかし不備と回答している学校が年度によって異なっている。近年、県内では学校の統廃合が進んでいることもあり、今後は、計画の引き継ぎや、より学校の実態にあった計画となるよう、促していくと共に、先進的な事例等を紹介していく必要があると考えている。
- ・ 「食に関する指導」担当組織を有する学校数は、年ごとに着実に増えてきている。学校全体で食育に取り組む意識が定着しつつあるといえる。
- ・ 各学校においては、各教科、特別活動、総合的な学習の時間等との関連を図りながら、学校や地域の実態に応じたものとなるよう、また、地域・家庭と連携し、児童生徒の実践力を養う取組となるよう実践をとおしてさらに内容を検討していく必要がある。
- ・ 発達段階に応じた継続的な指導としていくために、幼稚園・小学校・中学校・高等学校の連携を更に図っていく必要がある。

### イ 指導内容の充実について

- ・ 食育推進検討会議等を通して県の食育推進の方向性を今後も検討していく必要がある。
- ・ 栄養教諭の資質の向上を図るため、先進的な取り組みについての情報共有や食育を行う上での課題や成果など検証する場が必要である。
- ・ 食に関する指導の進め方等について、教職員や学校給食関係者を対象とした研修会を開催し、対象者の資質を高めると共に、推進地域の実践や県教委の食育推進の方向性等を全県に広める必要がある。

### ウ その他

- ・ これまで、本県においては、本事業を活用し様々な食育推進を行ってきた。来年度は本事業が廃止になり、新規事業が始まるが、本県の事業内容はその対象外となるので、今後の事業の持ち方や予算措置などが大きな課題となる。